

毛刈りに要する時間は、1頭当たり20～30分で、その経費は労賃を含め約1,000円と試算されています。収益の増加は、毛刈りによる乳量の増加等から試算すると、1頭当たり約2万円を超えると試算することができます。

■乳牛の間で横臥すると風が来ない!!

北海道からの未経産牛は厚い毛皮をまとして導入されてきます。2、3ヶ月前には日中でも-5～10℃の北海道の屋外にいたのに、5月の連休頃に30℃を超えることもある広島の牛舎内に繋がれている初産牛の苦しみは大変なものです。

送風機の数を増やした牧場も多いので、全頭が綺麗に横臥していると風が行き渡る牧場も多くなっていますが、立った牛の間で横臥した場合は風量が大きく減少してしまい、ほとんど来なくなります。そのため、腹から乳房にかけては、ほとんど風が動いていない牧場が多くあります。

その上、腹と下半身には発酵熱による大きな熱源であるルーメンと、大きな血流のある乳房があります。そのため、風を浴び下半身に風を通すために、日中立ちっぱなしの牛を多く見ることができます(体温が高く、風の少ない部分は蚊や刺しバエの格好の居場所となり大きなストレスでもあります)。

■暑くなる前に早期に行動しましょう

もし、乳牛が立ったまましていると肢蹄に大きな負担が掛かります。餌による肢蹄の障害もありますが、立ちっぱなしによる肢蹄の障害も多くあります。しかも、肝臓に流れる血流量が大きく減少するため乳量も減少します。毛刈りは、牛の体熱放散を助ける身近な方法です。牛用の大型バリカンを用意して、6月になったら始めましょう(牛の毛が細かく飛びますので、マスクをして、つなぎやヤッケ等で、しっかり自分の体を防御する必要があります)。冬を越えた牛の体は汚れていたり、油気が多かたりして洗わないことにはバリカンを入れるのに苦労することもあります。多くのメリットがあります。本格的に暑くなると、人の方がやる気がなくなり、飼料畑の仕事も忙しくなります。毛刈りは出来るだけ計画的に6月中に終わらしましょう。暑さが本格的にならない内から暑熱ストレスを減らしておくこと、これも大切な暑熱対策であり、所得向上策です。

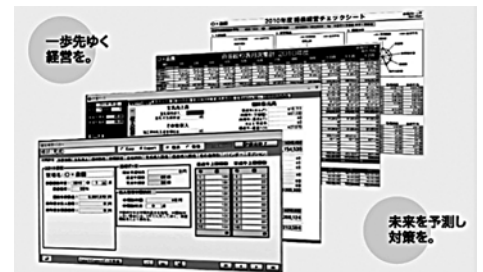
組合員の
皆様へ

酪農家経営管理支援システム DMSシステム Dairy-farm Management Support System

ご利用を検討下さい。→ご用命は広酪事業推進課(電話 0824-64-2072)まで

【目的】

DMSシステムは、月次決算を行い、日々の経営管理を徹底するためのシステムです。その場しのぎではなく、5年後、10年後を見据えた牧場経営のシミュレートを行い、経営管理と飼養管理を一体化したサポートを実現します。経営管理の副産物として青色申告書も作成することができます。



【月次決算を実現するために】

経理処理に時間を掛けるのは、本末転倒です。DMSシステムでは酪農専用の会計ソフト『e酪農経営』を使用することにより、簿記の知識が無い方でも入力できるように配慮しています。また、組合の乳代精算データをインポートする機能もありますので、乳代精算に関する項目は入力を省くことが出来ます。(組合のシステムによりインポートが不可能な場合も有ります)

【乳代精算書データインポート】(イメージ)



事件は現場で起きています



牛体の毛刈りで体熱放散！

広酪事業推進課 係長 大畠達夫

■ホルスタインは暑さに弱い

ホルスタインは、寒い地域で選抜改良が行われた動物であるため、暑さに強くありません。代わりに寒さには強く、体表面に密生した体毛の中には空気が滞留し、断熱材の働きをしています(今、はやりのペアガラスと一緒にですね)。これは気温が低い場合、体内から熱が奪われるのを防ぐ役割をしますが、逆に気温が高い場合は、体から熱を逃がす効率を悪くする原因となります。

暑熱対策の重要性が説かれ、昨今夏場の牛舎では換気扇が昼夜稼働するようになったため、夏場の乳量は向上し事故も減ったと思いますが、代わりに高額な電気代の請求が来るようになりました。多くの牧場がインバーターの使用により、効率的な稼働を行っていますが、電気代は「0」にはなりません。また、換気扇による送風効果は、風が大きく動いてこそ効果があります。そこで、若干の手間はかかりますが効率的な暑熱対策を考えたいと思います。これには3つの基本があります。

1. 体表面温度は、体毛がある場合は屋内にいるならほぼ気温と同じになる。
2. 毛を刈ると、体表面温度はほぼ体温と同じになる。
3. 体温と気温の差により効率よく熱を逃がすことが可能となる。更に体毛を剃ることにより、汗の蒸発量も増加し、熱放散の効率が高まる。

■手はかかるが大きな見返りがあります

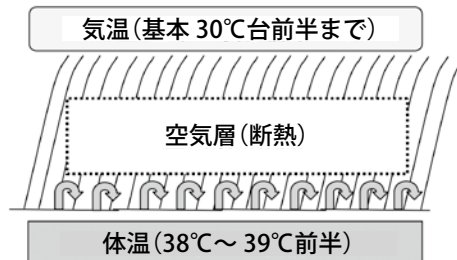
平成9年度家畜診療等技術全国研究集会において『乳牛の暑熱対策としての牛体毛刈の効果』の研究結果が【吉田賞・農林水産省経済局長賞】を受賞しています。畠中みどり先生(現在、NOSAI兵庫 淡路基幹診療所に勤務)の協力を得て、費用を掛けずに大きな効果がある暑熱対策として紹介させていただきます。

検証は、6月下旬に牛用大型バリカンで、肢蹄を除く全身を1mmの長さまで毛刈りし、その後4カ月間、毛刈りをしなかった牛と乳量等の比較をされました。それにより毛刈りした牛は「毛刈りしない牛より、乳量が2～4%多い」という結果が得られました。7～10月の4カ月間で、1頭当たりの乳量で237kgも増加したことになります。また、乳脂分率や無脂固形分率も、毛刈りをした方がどちらも0.2%程度高く、乳量の増加と成分の増加両方に貢献することが分かっています。

平成9年当時の試算なので現在とずれはあってもかもしれませんが、経費の試算がされています。

項目	内容	費用
バリカン減価償却	(購入価格－残存価格 / 耐用年数) / 年間 100 頭 (78,000 円) (7,800 円) (5 年)	140 円
替刃消耗	購入価格 (10,100 円) / 耐用頭数 (100 頭)	101 円
人件費	1 時間当たりの労賃 × 毛刈り時間 (1,929 円) (25 分)	804 円
	合計	1,045 円

(毛が長いと体温が毛の表面に伝わず、表面はほぼ気温と同じ。体温は放熱されない。)



(毛を刈ると、体温が毛の表面に伝わり、表面はほぼ体温と同じ。体温が放出される。)

